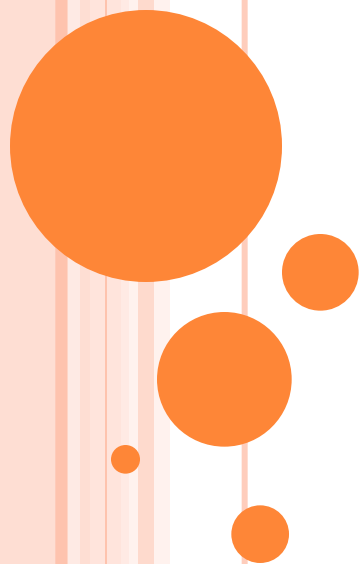
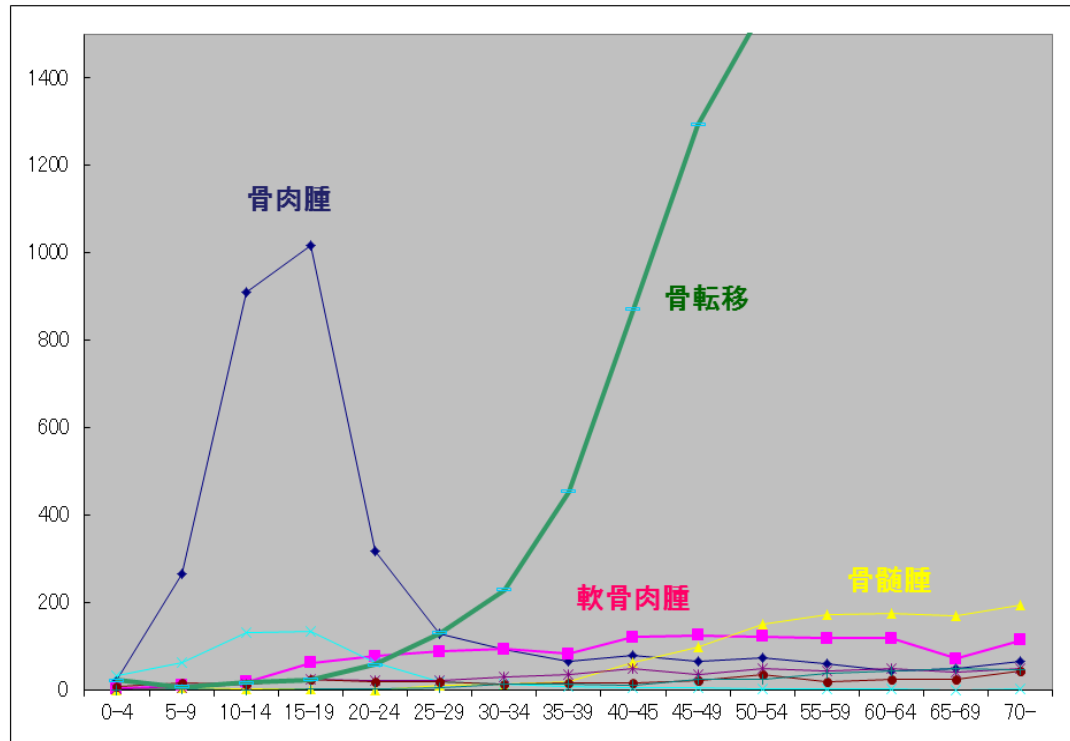


高齢・脆弱な患者を骨転移から守る ための情報提供と望まれるチーム医療



骨にできる悪性腫瘍の年齢分布

好発年齢分布：日整会骨軟部腫瘍登録より



- 30歳代後半から急激に発生頻度が上昇している。
- 発生頻度の高いがん種 肺がん 乳がん 前立腺がん
- 頻度が低いがん種は、医療者・患者ともに認識不足となりやすい



骨転移 3つの症状

- 痛み
 - ・3つの中で最初に起こりやすい。
 - ・「痛み」は素晴らしい警報システム。
- 骨折
 - ・骨の脆弱性が軽度で痛みはないが、強めの外力により骨折が起こることがある。
 - ・ある日突然骨折が起こり、精密検査で進行がんが発見される場合もある。
 - ・骨折は対処法がいくつもあり、動く状態に戻せる可能性が高い。
- 麻痺
 - ・麻痺部分のコントロール不能。(排泄、寝返りなど行動への障害)
 - ・感覚の麻痺(痛みも感じられなくなる)。



がんと闘い、その上さらに骨折や麻痺に陥るような事態は
何としても食い止めたい。誰にでも起こり得ることとして、患
者も骨転移の知識を持っておくべきである。



—あなたの知りたい情報にいち早くたどりつくために—
治療の参考になる情報へナビゲート(道案内)します。

HOME

がんを

知っておこう

- ※ [がんってどんなもの？](#)
- ※ [予知について](#)
- ※ [検査について](#)
- ※ [医療費・制度について](#)
- ※ [生命保険・がん保険](#)

がんについて

調べよう

→ スピード検索

- ※ [大阪エリア別がん情報](#)
- ※ [ええナビ用語集](#)
- ※ [病気の解説、診断・治療](#)
- ※ [薬について](#)
- ※ [検査法、診断法](#)
- ※ [病院について](#)
- ※ [療養生活について](#)
- ※ [相談・支援窓口](#)
- ※ [臨床試験](#)
- ※ [緩和ケア](#)

カテゴリ

🔍 [病気の解説、診断・治療](#)

👉 [骨転移について](#)

🔍 [骨転移について](#)

知っておくべき骨転移の知識

「がんが骨に転移する」ということは、患者さんもお存じのことだと思います。主治医も骨転移が見つければ即座に適切な対策を講じてくださいます。ですが、患者さんも「がん」と診断された段階で、骨転移についての知識を少しでも知っておくことで、重篤な状態にならずに済む場合があります。近年はチーム医療でのがん診療が整備され、骨転移に関して専門的な判断や治療が必要な場合は、整形外科医が協力して治療を行います。

その整形外科医ががん診療で果たす役割が重要視されつつある理由は、大きく二つ挙げられると思います。一つは、がんを持ちつつ生活する方が増えてきたために、骨転移への配慮がますます大切になってきたことが挙げられます。もう一つはがんとともに生きるとき、より人間らしい活動的な生活が求められるようになってきた点があります。これらの時代のニーズに沿って、整形外科の重要性が高まってきたのは自然な流れです。

(文芸社刊行 橋本 伸之著「がんを生きるための 骨転移リテラシー」より抜粋)

がんの骨転移は、他の臓器に転移することと比べて生命に直接関わらないので軽視されがちですが、がん患者さんがQOL(生活の質)を高く保ちながら生活していくには、骨転移を適切にコントロールして、骨折や麻痺などの重篤な症状をできるだけ避けなければなりません。そのためにも、患者さんも骨転移への知識を深めていくことがとても重要です。

このカテゴリでは、がん患者さんに役立てて頂ける骨転移の情報を紹介していきます。

掲載情報：骨転移から身を守るために患者が知っておくべきこと

○ 高齢者骨転移の注意点

閉経後の女性では骨粗鬆症がベースにあることが一般的です。

高齢者の場合、治療は体力の衰えが著しいことを考慮して、なるべく短期間で終了できるような治療方法を選択します。

○ 麻痺と思われるときは病院受診！

「立てなくなったら**48時間**」

「麻痺はがん診療の中で、エマージェンシー（緊急）」

怪しいかな、と思うときは迷わず金曜日の午前中に相談に行っておくべきです。

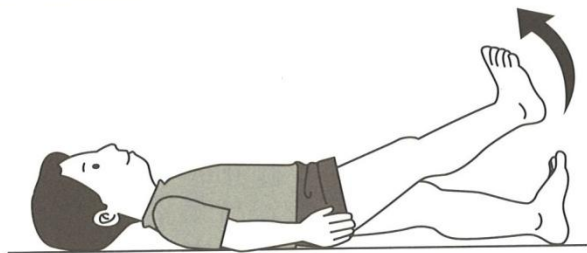
○ 忘れがちな神経障害性疼痛



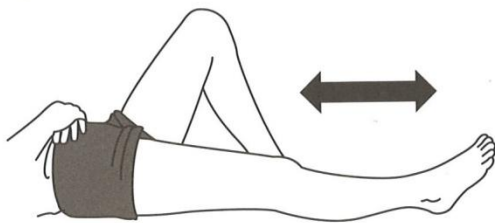
簡単な麻痺の調べ方

図10 簡単な麻痺の調べかた

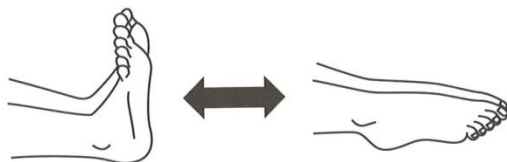
足をあげる



膝立て



足首の屈伸



掲載情報：がんと関連する要注意な症状であるかどうかを見破る方法

○ 怪しい

- ・ケガなどのきっかけがないのに痛み出した
- ・はじめと比べると痛みが強くなってきている
- ・痛みの出る頻度が増してきている
- ・はじめは強く力をかけた時だけだったのに、ちょっとした力でも痛い
- ・動いていないのに(じっとしていても)疼く
- ・一般的な鎮痛薬をもらったがおさまらない
- ・ここ5～10年以内にがんの経験がある
- ・中年以降の方

○ がん骨転移の可能性が低い

- ・数日前から痛み出した(経過が短すぎる)
 - ・数年前から徐々に悪化している(経過が長すぎる)
 - ・いったん症状が出たが明らかによくなっていた時期がある(進行性とは言えない)
 - ・若年者
- 

まとめ

- 患者・家族への情報提供は、早期の対応を施すためにも重要である。
- 骨転移への早期からの適切な対応を行うためには、担当科だけでなく、整形外科やリハビリテーション科など、多方面からのチーム的アプローチも望まれるものである。
- 整形外科の腫瘍専門医は少数派
- 癌腫別の発生頻度においても、きちんとした国内のデータが取られていない。国民の健康増進を推進する上において、骨転移の基本的データすら取られていない
- QOL重視のがん診療へ
- 患者と医療者の相互理解



出典

がんを生きるための骨転移リテラシー

～整形外科医から見たがん診療の盲点～ 文芸社

大阪府立成人病センター 整形外科副部長 橋本伸之著

